

出雲地区

保護司会だより

第34号



体罰等によらない子育てを広げよう！

島根県出雲児童相談所 所長

昌子

裕

我が国においては、「しつけのために子どもを叩くことはやむを得ない」という意識が残念ながら根強く存在しています。

国際的には、一九七九年に世界で初めてスウェーデンが体罰を禁止して以降、多くの国で子どもに対する体罰を法律で禁止してきています。日本でも、昨年6月に成立した児童福祉法等の改正法において、体罰が許されないものであることが法定化され、今年の四月一日から施行されています。子どもの権利が守られる体罰のない社会を実現していくためには、一人ひとりが意識を変えていくとともに、子育て中の保護者に対する支援も含めて、社会全体で取り組んでいかなくてはなりません。

「何度言っても言うことを聞

かない」、「痛みを伴う方が理解をする」、「自分もそうして育てられた」など、しつけのためだから仕方がないと体罰を容認していませんか？体罰によって子どもの行動が変わったとしても、それは叩かれた恐怖心等によつて行動した姿であり、自分で考えて行動した姿ではありません。子どもの成長の助けにならないばかりか、心身の発達等に悪影響を及ぼしてしまう可能性があります。

一方で、子育てを頑張るのはとても大変なことです。子育ての大変さを保護者だけで抱えるのではなく、少しでも困ったことがあれば、親族、親戚、知人、地域の方や市町村等に気軽に相談し、必要な支援を受けましょう。

今回の法改正による体罰禁止は、親が、痛みや苦しみを利用して子どもの言動を統制するのではなく、体罰等によらない子育てを推進するため、子育て中の保護者に対する支援も含めて社会全体で取り組んでいくためのものです。体罰禁止に関する考え方を普及し、社会全体で体罰等によらない子育てについて考えていくとともに、保護者が子育てに悩んだ時に、適切な支援につながるができる社会や地域を目指して、一緒に取り組んでいきましょう。

参考：「体罰等によらない子育てのために」みんなで育児を支える社会に」（令和二年二月厚生労働省「体罰等によらない子育ての推進に関する検討会」厚生労働省ホームページでご覧いただけます。

令和2年度 「社会を明るくする運動」 標語及び作文入選作品の紹介

出雲地区保護司会では「犯罪のない明るい街づくり」「青少年の非行防止」をアピールする標語を、一般の部、小・中学生の部（出雲市青少年育成市民会議との共催）として募集しました。一般は198点、小学生は149点、中学生は173点の応募がありました。

また、島根県社会を明るくする運動推進委員会が行った作文コンテストに協力し、小・中学校に参加を呼びかけたところ、小学生から111点、中学生から38点の応募がありました。

当保護司会で慎重に審査した結果、次のとおり決定しました。たくさんの応募をありがとうございました。

一般の部

最優秀賞

認め合う

会話の弾む 明るい社会

芦渡町 石橋 厚

優秀賞

あいさつは

心の握手 わたしから

大津町 西尾千賀子

マスク時も

笑顔の会釈 思いやり

古志町 小玉 幸枝

寄り添って

心の温もり 分かち合う

平野町 石飛 正三

広げましょう

声がけ あいさつ

東林木町 中島 薫

笑顔の輪

あいさつは

地域支える 底力

斐川町 稲田佳寿子

佳作

支え合う

手と手で作る 地域の輪

大社町 前島 一美

それぞれが

居場所と出番のある社会

斐川町 藤森 観海

ありがとう

あなたの笑顔が 宝物

鹿園寺町 吾郷 桂子

つくろうよ

住みよいまちを 出雲から

平田町 高橋 光彰

それぞれの

いのち輝く まちづくり

斐川町 藤森 麗子

気付いてね

やり直そうと してる人

美野町 間瀬 慧子

みたいだよ

だげな話に 乗らぬ事

里方町 石倉 敦子

立直る くじけぬ心に

支援の仲間

東林木町 三島 和子

いろめがね はずすときと

明るい社会

佐田町 和田 智美

その言葉

伝える前に 深呼吸

湖陵町 三原 知恵

小学生の部

最優秀賞

だいいょうぶ？

その一言が うれしいね！

莊原小学校 二年 石橋 奏汰

優秀賞

あいさつは

だれでもおくれる

プレゼント

莊原小学校 三年 中山美組斗

「ありがとう」

その一言で 笑顔になれる

高浜小学校 五年 安部 瑛太

佳作

だめだよと

いえるともだち

つくろうよ

長浜小学校 一年 田中 美桜

言葉でね

笑顔を一つ ふやそうよ

長浜小学校 六年 大國 愛実

思いやり

まずはみぢかな

家ぞくから

莊原小学校 二年 渡部 芽衣

あいさつは

朝一番のあいことば

大社小学校 四年 石田 蒼真

ひろげよう

そのやさしさと その笑顔

莊原小学校 六年 春木かおり

さみしそう？

そうかんじたら

こえかける

莊原小学校 一年 小島 武

マスクごし

元気な声で 笑顔めざす

莊原小学校 五年 須田 健吾

作ろうよ

はんざいのない

明るい未来

荒木小学校 三年 小村 風雅

だれにでも

やさしい心と 思いやり

荒木小学校 六年 糸賀 にこ

マスクでも

みんなえがおの

花さかそう

大社小学校 二年 石倉 光

中学生の部

最優秀賞

思いやり

あなたの笑顔で 町づくり

斐川東中学校 一年 須田 栞渚

優秀賞

人任せ

誰かじゃなくて 自分から

南中学校 三年 上村 花

断ち切ろう

いじめや差別の その行動

第一中学校 二年 金本 修

佳作

深めよう

SNSより 家族の絆

南中学校 二年 岡野 晃汰

その勇氣

その一言が 救う道

南中学校 三年 森山 乃彩

いじめの火

広がる前に みんなで消火

第一中学校 一年 有働 みず

思いやり

届けて広がる 笑顔の輪

南中学校 一年 石川 諒

やめようね

いじめ悪口 いやがらせ

南中学校 二年 森山 青空

風評や

見た目の判断

消していこう

第一中学校 二年 錦織 佑菜

一人じゃない

その一言で 救われる

南中学校 一年 石川 愛葉

日々願う

心豊かに 暮らせる社会

南中学校 二年 桑原 莉瑚

つながよう

十人十色 輝く個性

斐川東中学校 三年 清水 京香

咲かせたい

優しさあふれる 笑顔の花

第一中学校 二年 金山 唯那

「社会を
明るく
する運動」

作文コンテスト優秀作品



小学校の部 島根県保護司会連合会長賞(優秀賞)

心によゆうをもつこと

湖陵小学校 五年 大^{おお}國^{ぐに} こはな

夕ご飯をみんなで食べている時、
高校一年生のお兄さんが言いまし
た。

「この間、駅のきつえん所じゃない
所でたばこをすっているおじさん
に注意をしたよ。」

お父さんも、お母さんも少しびっ
くりした顔をしました。お母さんが
何と言ったのか聞きました。

「ここは、たばこをすう場所ではあ
りませんよ。」

と言ったそうです。私は、「お兄さ
んすごいな。お父さんもお母さんも
『良い事をしたね。』とほめるんだろ
うな。」と思いました。でも二人と
も、

「うーん。」

とむずかしい顔をしました。お母さ
んが、心配そうに相手がどうしたの
か聞きました。

「はい。すみません。」

と場所を変えられたそうです。お母
さんはほっとした様子でした。お父
さんはむずかしい顔をしたまま言
いました。

「今回は何もなくて良かったけれ
ど、人によっては高校生に注意をさ
れて逆におこる人もいます。」

お母さんも、そういう時は走って
にげた方が良いと言いましたが、お
父さんは走ってにげる事ができた
らしいけれど、あぶない目にあうか
も知れないと言いました。私は、自
分が思っていたこととちがって

たので、少し不思議に思いました。
では、まちがったことをしている
人を見た時に、私達はどうすれば良
いのでしょうか。注意をした方が良
いのか、見てみぬふりをするのか。
私の家では、ばんご飯を食べなが
ら、その日にあったことなどをよく
話します。うれしかったことや楽し
かったこと、友だちとの話もたくさ
んします。こんなことがあった時、
どうすれば良かったのか教えても
らうこともよくあります。今回のお
兄さんのこともいろいろ話をしま
したが、お兄さんが注意したことが
良かったのか悪かったのか答えは
出ませんでした。それでも私はやつ
ぱり、「お兄さんすごい！私も注意
ができるようになりたい！」と思
います。

最近テレビでは、あおり運転でど
なったりなぐったりする動画や、マ
スクのことでけんかをする動画な
ど、人と人がしょうとつしている場
面をとともよく見ます。どうしてこ
んな怖いことが起こっているのだ
ろうと思います。

私が住んでいる町は、小さいころ

から近所の人に声をかけたり、元気
にあいさつをしたりしています。み
んなが笑顔で気持ちがいいです。地
いきのみなさんが、私たち子どもや
お年よりを見守ってくれている気
がします。テレビで見えるような怖
いけんかなども、見たことがありま
せん。でも、小学校や中学校を卒業し
てもっと広い社会に出た時に、そう
いう場面を見ることがあるかもしれ
ません。私のお兄さんのようなこ
とも、起こるかも知れません。そう
いう時に、どうすることが一番正し
くて安全なのか。これから家族のみ
んなや先生の話を聞いて考えてい
かなければいけないと思います。

そして、家でもよく言われ、私も
気をつけていることがあります。

「心によゆうをもつこと。」

です。きつと心によゆうがあると、
さ細なことでイライラしたり、けん
かをしたりすることもなくなると
思います。私が住んでいる町のよう
に、みんなが笑顔でいて、まちがっ
たことをしている人にきちんと注
意をすることができると社会になる
と思います。

中学校の部 島根県BBS連盟会長賞(優秀賞)

大きな背中

大社中学校 二年 加持彩花

あなたには、憧れとしている人がいますか。憧れている人を自分の目標にすれば、どんなに苦しい事だって乗り越えられると思います。正しくて大きな背中を見て育ったあなたが、非行のない社会を作り上げていくのだと思います。

私には目標とする大人が二人います。

一人はある学校の先生です。私は小学生の頃、自由人間で何でも友だちの前では言いたいほうだいでした。思ったこと、感じたこと、友だちが嫌がること、人の悪口、いつも自由すぎるくらいでした。周りの友だちとも悪口を言いあっていたけれど、みんな悪口を言っているから、周りに私たちを止められる同級生は誰もいませんでした。

ある日の昼休み、クラスの友だちと陰口を言っていたら、ある先生が、「そんな事、あなたたちが言われたら傷付くでしょう。人の陰口じゃな

くて、良い所探しをしよう。」

と言ってくれました。その日からクラスでは人の良い所を話し合う機会が増えて、みんなが温かい気持ちで学校に通えるようになりました。その先生は他の学校に異動され、私は中学生になりました。今でもその先生の大きくて温かくて、優しい背中が忘れられません。

自分を自分で止められなくなっってしまった時、正しい方向へ導いてくれる大人が、あなたの周りにはいますか。私はずっとその先生の事を目標にしています。私も先生のようになくさんの人に信頼されて、誰かを助けられる人になりたいです。

二人目は、名前も知らないおじさんです。私は家族とスーパーへ買い物に行きました。買った物をつめているときでした。小学生の少年が会計をしていました。少年はお金がありませんでした。レジの人とどれを返すか相談していたら、後ろに並ん

でいた見ず知らずのおじさんが、少年の足りない分のお金を払っていました。少年は無事に買い物をする事ができました。後ろに並んでいたおじさんは、自分の会計が終わると何事もなかったかのように帰っていきました。私はとても感動しました。おじさんの去り際の背中とはとてもかっこいいと思いました。

自分にとって何一つ良いことがなくても、助けてあげられる、そんな大人を私は尊敬しています。あのおじさんのように、人のために迷わず手をさしのべられるような大人になりたいです。

あなたは道で財布を拾ったときどうしますか。選択肢は二つです。交番に届けるか、自分の物にするのかです。そんな時、迷わず交番に届けることを選べる大人になりたいです。たとえ落とし物でも、自分の物でない物を自分の物にするのなら、どろぼうと変わらないと思います。どろぼうだって犯罪です。一度どろぼうなどの犯罪をおかしてしまうと、もっと、大きな犯罪を起こす可能性があります。人が困っているという事に気付けなくなるからです。どろぼうをした時

も相手が困ること、自分がされたら困ることが考えられなくなってしまう。今回だけという風に思っている人の再犯率は上がるでしょう。今回だけ。今回だけ。その繰り返しになるからです。一度目に正しい選択をしたのなら、この先だって正しい選択ができると思います。どんな場合でも正しい選択のできる大人になりたいです。

あなたの周りに正しい事を教えてくれる大人はどれくらいいますか。大人だって、大人である前に一人の人なので、間違ってしまうことはあると思います。大事なのは、自分の間違いに気づくことができるということです。一度間違った選択をして、後悔しているのなら次はきつと正しい選択ができると思います。大人よりも子どもが正しかったことだと思っています。そんな時、自分が間違っていたと認められる人になりたいです。

これからも尊敬している人、憧れている人の大きな背中を追いかけながら、まっすぐに歩いていきたいです。一人ひとりが意識を高め誰もが安心して暮らせる、非行のない世界を目指していきたいです。

「更生保護」ってどこ存じですか？

松江保護観察所 保護観察官(出雲担当) 近藤 由美

罪を犯した人も、裁判を終え、処分をうければ、いずれ社会に戻ってきます。「更生保護」は、罪を償い、再出発しようとする人たちの立ち直りを支え、再び犯罪や非行に陥るのを防ぐ活動で、保護観察所をはじめとする国の機関と「保護司」、「更生保護女性会」、「協力雇用主」、「BBS会」などのボランティアが力を合わせて行っています。

出雲市の更生保護も多くの更生保護ボランティアにより支えられています。

保護司は、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを地域で支える民間のボランティアです。犯罪や非行により、保護観察を受けることになった人の生活を見守り、相談に乗ったり、指導や助言を行うほか、犯罪を予防するための地域活動など、八十一人の保護司が活躍しています。



クジラ先生

ホゴちゃんの更生物語



更生保護女性会

会は、女性の立場から地域における犯罪予防の活動や子どもたちの健全育成のための支援活動などを行うボランティア団体で、六地区、七十三人の会員が、学校訪問や児童の見守り活動、子育て支援など地域に密着した活動を行っています。



オコジョさん

協力雇用主

犯罪や非行歴のため仕事に就くことが難しい人



アシカ親方

私たちを、その事情を理解した上で雇用し、その立ち直りに協力する民間の事業主で、三十一社が協力しています。

BBS会は、さまざまな問題を抱える少年に、兄や姉のような立場で接し、一緒に悩み、喜び、楽しむことを通して、少年の成長を助ける青年ボランティアです。十名の会員が活躍しており、イモほりや料理教室などの体験の機会を提供してくれます。



イルカ姉さん

このように更生保護の活動は、民間の方々に支えられています。さて、最近、犯罪の発生は減少傾向にあるのに、再犯率が上昇し続

けていることが問題となっていました。

罪を犯した人も反省と償いを経て社会に帰ってきます。彼らが立ち直りの努力をするのは当然ですが、社会に帰ってきて「居場所」や「仕事(出番)」がない。「困っても相談できる人がいない」ために、再び、罪を犯してしまうという悪循環があることも事実なのです。彼らが、この悪循環から脱し、自助の努力のもと立ち直るためには、地域とのつながり、地域社会のあたたかい心が必要です。

この機会に、自分なら何ができるかを考えてみませんか。ぜひ、できることから、はじめていただけませんか。

地域で更生保護を支えるボランティア

出雲市内の更生保護ボランティアと県内唯一の更生保護施設「しらふじ」の活動などを紹介いたします。皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。なお、更に詳しく知りたい方は、出雲更生保護サポートセンター（二二一七一九〇）までご連絡ください。

出雲地区保護司会

会長 三島 洪道

保護司は、法務大臣から委嘱された更生保護のボランティアです。犯罪や非行をした人の立ち直りを支援するとともに、保護司会の一員として、国等の関係機関や他の更生保護ボランティアと協力し、社会を明るくする運動をはじめとして犯罪を予防するための啓発活動などを行っています。

現在、出雲地区保護司会には八十一名（定数八十五名）の会員がいて、出雲（四十名）、平田（十六名）、斐川（十名）、河南（八名）、大社（七名）の各支部で地域の活動を行っています。

出雲地区更生保護女性会

会長 嘉藤 観美

出雲地区更生保護女性会は、旧出雲市十六地区一三二名の会員で活動しています。

青少年の健全育成や非行防止や更生を願い、募金を募り、それを県女性連盟を通して関係施設に愛の募金として贈呈しています。また地元和学校関係機関七十一校（園）にも心を育む愛の図書として贈っています。幼・保育園

には手作りのホグちゃん・サラちゃんの指人形を持参して紙芝居をし、健全育成を伝えるなど各地区それぞれ工夫を凝らしてふれあいの場をつくり、見守っています。

また、『出雲更生保護女性会だより』を年二回発行し、絆を深め、地区の皆様にも私たちの活動を知っていただくよう努めています。

平田地区更生保護女性会

会長 大谷 民子

平田地区更生保護女性会は、会員一六十名、十支部で活動しています。

活動目標を①青少年健全育成・子育て支援②更生活動の理解を深める③更生保護施設への支援とし、子どもたちが地域の温もりを感じながら心身ともに健やかに成長することを願って活動しています。毎年、地域内の小学校十校の卒業式には卒業生と先生方に更女会員が和紙を染め、胸花を手づくりして贈っていますが、大変喜んでいただいています。

最近では、保護司会や民生児童委員協議会と連携し、入学・卒業お祝い会・研修会等を開催していますが、親睦が深まり、更女会員の士気も高揚して参り

ました。今後一層連携し、明るい地域づくりにも更女の力を発揮して行きたいと思っています。

斐川地区更生保護女性会

会長 江角 佳子

昭和三十三年九月十六日に結成された斐川地区更生保護女性会は、一昨年創立六十周年を迎えて更に充実した活動をと再確認しながら歩んでおります。

活動内容

○社会を明るくする標語を募集
○町内全小・中学校・幼稚園・こども園・保育園に愛の図書贈呈と交流会
○社会を明るくする運動・子育て支援・地域見守り・高齢者支援等他団体との協働活動

本年はコロナウィルス感染防止対策のため活動自粛の中、会員の声で各園・学校に手洗い石鹸を贈りました。どんな状況でも何かできることはないかとの姿勢は、先人から受け継いだ財産なのだと思います。

佐田地区更生保護女性会

会長 杉山 悦子

昭和五十一年結成の佐田地区更生保護女性会は、九十五名の会員が次のような活動をしています。

- ① 青少年の保護育成や防犯思想の普及
- 町内八十一ヶ所の「愛の標語」の掲示
- 町内の小中学校への入学・卒業祝品贈呈
- 児童生徒の見守り・挨拶運動参加
- 紙芝居（防犯、いじめ防止等）の実施
- 会員研修（隔年で講演会と施設訪問）
- ② 更生支援

- 更生保護法人「しらふじ」への支援金・物資の寄贈
- 募金活動により、県下の更生施設等への「図書購入費」の寄贈

多伎地区更生保護女性会

会長 柳樂 利子

現今のように、世情が移り、人々の心情を揺るがす時にあつて、私たちは一人ひとりが人として尊重され、社会の一員として協力し、心豊かに生きられる社会を目指して、協力しながら活動するように心がけています。研修・活動内容は、総会で協議し、会員の相互理解のもとに、その時勢に適応するテーマを決定します。

一、会員研修

① 講演会 ② ビデオ視聴等の開催

二、会員活動

① 愛の募金活動 ② 施設訪問

③ 社会を明るくする運動への参加

④ 高齢者サロンへ訪問（紙芝居）

三、会員相互の親睦

○ 研修視察旅行など

四、他団体との連携

○ 地域内の諸会合に参加協力して青少年の健全育成に取り組む

大社地区更生保護女性会

会長 川上 清子

私たちの会は、今年で五十七年目を迎えます。

大社内五地域で構成され、現在一二七名の会員で活動しています。活動内容は次の様です。

- ① 子育て支援と青少年の健全育成

- ・図書券贈呈(幼稚園・各学校等十二ヶ所)
- ・ミシン学習補助(小学校で十回前後)
- ・布製玩具・エプロン等の制作、贈呈
- ・通学宿泊体験の見守り
- ・季節行事への参加
- ・紙芝居の上演(食育いじめ防止防犯)
- ②会員の相互研修
- ・研修会・講演会の実施
- ・機関誌発行(年一回)
- ・施設訪問(生活用品など支援品持参)

出雲地区協力事業主会

会長 福代 明正

出雲地区協力事業主(協力雇用主)会は、保護観察対象者等の更生の援助をはじめ、更生保護事業の充実発展に寄与することを目的として、平成十八年三月、松江保護観察所に登録されている十名の協力雇用主で発足しました。現在では、市内の協力雇用主三十一名のうち二十一名が加入し、保護観察所等の関係機関や保護司会などと連携して、毎年、総会や研修会を開催しています。

犯罪や非行の前歴のために定職に就くことが容易でない保護観察対象者等を、その事情を理解した上で雇用し、改善更生に協力する民間の事業主(協力雇用主)として、あなたも一緒に社会貢献をやってみませんか。

※参考：県内では約二百、全国では約二万二千の事業主が登録されています。

出雲地区BBS会

会長 春日 智徳

BBS活動とは、Big Brothers and

Sisters Movementの略称です。少女少女たちの兄や姉のような存在として、非行少年等の成長や自立を支援する活動などを行っています。

出雲地区BBS会は、設立と休会を繰り返して、現在の会は平成二十二年に社会人八名で設立し、会員の仕事や特技を活かしたグループワークを中心に活動しています。例えば、会員が勤めるNPO法人と連携して少年たちと農作物の収穫体験をしたり、コミュニティセンターを会場に、料理が得意な会員とセンターに勤める会員が協力して、地域の子どもたちや少年たちと一緒に軽スポーツや食事で交流したりするなどの活動を行っています。

更生保護施設「しらふじ」

施設長 矢野 喜郎

しらふじは、全国に百三ヶ所ある更生保護施設の一つで、県内唯一の施設、定員は二十名、一日平均では約十六名を収容しています。

利用者の九割は、刑務所を仮釈放となった人たちで、平均在所期間は約三ヶ月です。この間に、利用者の特性(年齢、病気や障害の有無、所持金等)に応じ、その人の自立には何を優先すべきかを判断し、支援方針を決定しています。

主な支援として、就労先を調整し、自立のための資金確保や退所後松江市内に住む人たちの住居確保などを行っています。

終わりに、出雲地域の皆様方には、格別のご支援を賜っておりますことに感謝し、紙面をお借りして、厚く御礼申し上げます。

更生保護功労受彰者

(令和二年)

藍綬褒章

勝部 治良

法務大臣表彰

勝島 徹正

全国保護司連盟理事長表彰

岸 篤彦

中国地方更生保護委員会委員長表彰

坂根 光紀 橘 亮秀

野津 徳男 高尾 彬

中国地方保護司連盟会長表彰

花田久美子 山上 太全

川上 雅文 福田 緑

松江保護観察所長表彰

堀内 時雄 勝部 篤

藤原恵美子 水 教一

井上 安弘 岩佐 昌昭

岡田 隆 嘉本 秀男

島根県保護司会連合会会長表彰

板本 正久 打田美喜子

嘉本 武司 坂本美喜雄

角 美幸 村上 勉

渡部 亨次 佐々木知江三

竹下 正宏 三島 健二

山本 登

保護司の異動

◎新任

尾添 隆(出雲)

藤井 哲真(佐田)

(令和二年十二月一日付)

◎退任

園山 幸子(出雲)

(令和二年六月三十日付)

坂本 圭祥(出雲)

花田久美子(出雲)

(令和二年十一月三十日付)

【訃報】

保護司 米田 宣雄様(出雲支部・今市地区)

十月六日、ご逝去されました。

生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

第三十四号の巻頭言は、島根県出雲児童相談所の昌子裕所長に執筆いただきました。「社会全体で、子育て中の保護者を支援することが大切である」と述べられています。Withコロナの時代、空気の人替えだけでなく、お互いの心の風通しを良くすることも心掛けたいと思います。

さて、今号も小中学生の皆さんから、たくさんさんの標語・作文を応募いただきました。コロナ禍の今だからこそ、心に響く言葉があります。美味しいコーヒーでも飲みながら、力作を味わってみてください。(高見陸哉)